



今は肅として声なく、久保さんの死を悲しみ、また怒りながら、葬列はすすむ。

坑内傭子の思い

四山

藤田勝彪



三池闘争で一番悲しく、怒りを覚えたのはあの昭和三十五年三月二十九日の、久保清さんの死であった。私と久保さんとはなだたか、縁があったように思われる。会社がロックアウトをする前に、私と久保さんは同じ方だった。私と久保さんは同じ方(三万)だったので、一緒に昇坑して安全灯室に行つて見たら、私だけが残っていた。これはびっくりした。たまたまの曲が男々しく、また淋しい瞬間、スズリ泣の音がたたく。

思つたら、もう大きい嘆きの声となつて式場を震わせた。棺の上の坑内傭子は、久保さんと一緒に居たように思われる。第二番目に悲しく怒りを覚えたのは、昭和三十八年十一月九日の三川鉱山爆発であった。その日、私は三番方だったので、三川鉱山へすぐに救援に駆けつけた。坑内ではおびただしい人が死んでいった。暗闇の中に折り重なるように、同じ方向へ倒れて死んでいた。すかしで見ると鮮やかにクッキリと、三本線だけが真白く見えた。

久保さん、ソ連の大学卒業

かねて総評留學生の一員として、ソ連のルンペン大学で勉強していた久保福美さん(お父さんは重之さんで、三池闘争の犠牲者)は、この五月二十七日同大学を卒業、七月十一日帰郷した。この日は組合本部に「これまでお世話になりました」とお礼の言葉を述べたが、元気な顔を輝かせてきた。おめでとう、久保さん。

若者たちはゆく

若者たちの続編を公開

若者たちの続編に当たる、若者たちはゆく、が大牟田で公開されます。若者たちで感動した人々は、こんどは若者たちはゆくも一度感動しましょう。

公開は大牟田中央松竹で、来る八月二十七日からです。割引券は、各指導部にお問合わせ下さい。なお写真は、そのシーン。



主婦会だよりの発行も

主婦会定期総会ひらく

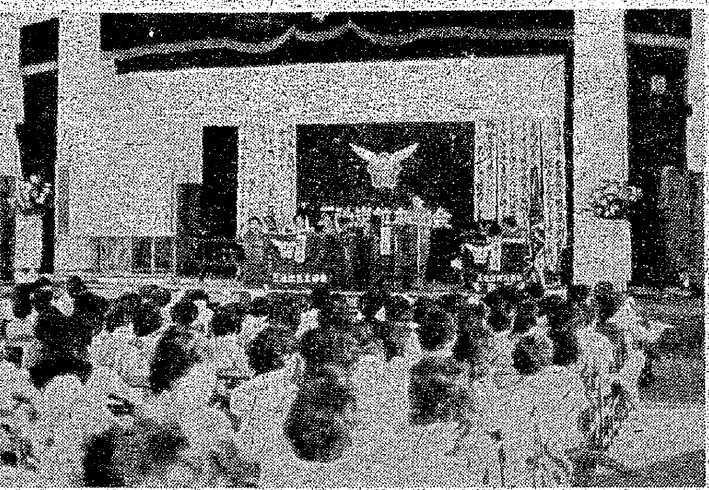
三池主婦会は七月二十六日午前九時から第十六回定期総会をひらき、新年度の運動方針、新役員などを決定した。ここで新しい運動方針は

- 一、組織を強めるために、講習活動のとりくみ、班会議、家族会議、執行部との交流、主婦会だよりの発行など行なう。
- 二、合理化に反対し、生命を守る
- 三、内証の場でも労働者としての権利を守り闘いを貫くために内証者懇談会を地域毎にひらく。
- 四、戦争に反対し、平和を守るための闘い、子どもの幸せを守る闘いなどを行なう。

新役員は下記の通り

- 会長 久保 時江
事務局長 島 文枝
組織部長 森川 くみ子
会計 田中 静江
宮浦支部 支部長 大佐古小夜子
組織部長 岡本 ハツエ
四山支部 支部長 福井 幸子
組織部長 松藤 信子
本所支部 支部長 田中 まつえ
港務支部 支部長 大石 千恵子

主婦会の総会



ありがたう!

夏季対策の皆さん

いま三池主婦会は、組合員家庭の児童を対象に、夏季対策をすすめている。

先生としては社会主義協会の援助により、各大学の学生さんがかけてくれた、勝立A.B.、宮原、新港、四山、緑ヶ丘の六箇所に分かれて泊りこみ、子どもや組合員と生活をともにしながら、午前中



港務指導部職場2分会の新聞「きかんしや」は、この暑さを吹き飛ばして活動している。

毎日を安全習慣に

職場新聞「きかんしや」訴える

例年の如く全国安全週間が行なわれた。大阪朝日新聞によると、「職場の災害で、年間六十余万人がケガをする。内四十五万人は八日間以上休む大ケガ。また死者は六百人をこえる。年間約二億二千万人がケガをする。一日に約六十万人がケガをする。一日に約六十万人がケガをする。一日に約六十万人がケガをする。」

自分の生命は自分で守るのだ。そして、会社が保安施設を完備するまでは、保安確保の要求をしつづけよう。

細菌に注意を!

赤ちゃんの夏のたぐもの



このごろの常軌的なことですが、調理するときに高温、場合は、手を石けんでよく洗う。赤ちゃんと一緒には、食器がなくなると、またすぐにお腹をこわしたりします。また細菌の繁殖には絶好のチャンスですから十分注意しましょう。

少しずつめんどくさいと与えてみましよう。よく飲み方が少ないから濃いミルクを与えるお母さんばかりですが、それは、ますます赤ちゃんをミルクに慣らしさせてしまいます。温度もやわらかくして、すこしずつ慣らしさせてあげましょう。